

APWLD よりのお知らせ (Asia Pacific Forum on Women, Law and Development)

パキスタン地震新情報 AJWRC 事務局 柏崎 知子

パキスタン、アザド・カシミール、インド、中国、アフガニスタンにまたがる地域を襲った大地震から 2 ヶ月半がたとうとしています。パキスタンの北西辺境地域とパキスタンが実効支配するアザド・カシミール地域が最も大きな被害を受けたところです。この地方では、山々はすでに雪で覆われ、人々は地震後まともな避難所もなく、凍える寒さの中大変困難な状況に直面しています。これから 2 ~ 3 ヶ月間は寒さとの闘いが続きます。最新の情報ではパキスタンとアザド・カシミールだけで約 400 万人が被害を受け、78,000 人がなくなり、70,000 が怪我を負い、350 万人が住む家を失いました。

Roots for Equity はカラチを拠点とする NGO です。11 月末に標高 2000m 以上のこの地方に救援チームを送りましたが、すでに凍える寒さ、雪の降る中での作業でした。数千家族が冬仕様ではない通常のテントに住んでいて、子供や年寄りはこの酷寒の中、命の危険にさらされています。また、親類や友人を多くなくした人々の不安や心の苦しきは癒されないうままです。Roots for Equity のチームがカシミールで作業をしていると、学校へ通う子供たちに出会うことがよくあります。何気ない会話から彼らが両親や級友をなくしたことがわかります。つらい経験を淡々と語る子供たちは、恐ろしい災害の経験から心を切り離し、距離を置いて乗り切ろうとしているのです。まだ多くの子供たちが教科書もないままですが、学校に来ることで日常感覚を取り戻せるようにと教師らは子供たちが学校に来るのに任せています。

国連から提供されるはずの基金のうち、これまで実際に送られたのは 40% にすぎません。国連の報告では、これから提供される人道援助のほとんどが山岳地帯の標高約 1,500m 以下のところに住む 190 万人のためだということです。冬を迎え、国連は 12 月中旬に、冬に耐えうる毛布 240 万枚の緊急支援を呼びかけました。多くの被害者は標高の高いところに住んでいますが、少しでも暖かいところに降りてこようとはしません。家をおいて、住み慣れた環境を離れ、避難キャンプで生活するのは誰でもいやなものです。住んでいた場所を離れば彼らの全財産、生活の糧でもある家畜も失うこととなります。またそこは先祖から受け継いだ土地でもあります。いったんその地を去れば、その土地の所有権を示す公的な文書などはありませんから、再び自分の土地に戻ることはできないのではないかと不安なのです。避難所は統制も厳しく、大勢の人でごった返し、生活するのは大変なところです。ムザファラバード近くのある避難キャンプでははしかが発生したとの情報が確認されました。人々が自分の土地で暮らせるよう、救援活動は必死の努力をしていますが、それでもニールム谷や標高の高い地域に住む数千人が移動を余儀なくされています。生き延びるために山を下りるか、山で死ぬか二つに一つです。

多くの人の命を救うためには、今やらなければなりません。しかし厳しい寒さが救援活動を遅らせます。冬を乗り越えても、心と体に傷を負った多くの子供たち、家を失った多くの人々が安心して暮らせる場所にたどり着くまで、救援活動は続きます。

Azra Talat Sayeed (アズラ・タラートド)

Roots for Equity (ルーツ・フォー・イティ) (NGO)

APWLD のメンバーで、パキスタンで救援活動されているグループがいくつかあります。ひとつは Shirkat Gah で、いくつかの NGO とともに救援活動をされています。もうひとつはカラチで活動されている ROOTS for Equity です。

Shirkat Gah からのメッセージを添付します。もうひとつ、Azra Talat Sayeed さんから現地の状況に関して情報を訳したものを以下に貼り付けます。

必要なのは、

- 1 現地で働ける医療チーム（山岳地帯と、寒さに対応できる専門技術がいます）
- 2 ． 経済援助（国家間の援助は人々に届いていません）
- 3 ． パキスタン政府と自国の政府に緊急援助をさらに早急におくこととその使われ方、人々に届いているかどうかまでの責任について手紙を送る、ことだそうです。

送金は銀行振り込みが便利とのことなので、直接それぞれの銀行口座をお願いします。

Shirkat Gah の銀行口座は添付のチラシにあります。

ROOTS のほうは Azra さんに直接たずねてください。Azra さんのパワーポイントのスライドは私からお送りできます。

多くの方に広めてご協力いただけたらうれしいです。

\*\*\*\*\*

国際的な支援はまったく足りていません。パキスタン政府と軍は支援どころか、送られてきた支援物資を横領し、それに対する政府の監視もありません。送られる支援のうち実際にそれが必要なひとに届いているのは5%とされます。

地域一帯で、学校の建物はほとんどすべて崩壊、一人の生存も確認されていません。土砂崩れは毎日起こっています。

すべての水源が破壊され、水がない状態です。女性たちは4KMも余計に歩いてほかの水源まで行かなければなりません。死者から水が汚染され、さらにコレラなどの疫病が広がると恐れられています。超右派のイスラム文化が女性の状況をさらに悪くしています。女性たちは支援が来て も近づけません。支援物資を得るために並ぶことができるのは男性だけです。支援のヘリコプターがテントを空から落としますが、多くは山に落ち、人々に届きません。落ちたテントに走りより、担いで持って帰れるのはごく一部の力のある男性だけで、女性には届きません。一分に一人の割合で赤ん坊が生まれています。ショックとトラウマが大きな問題です。

支援をする側の女性たちも、正しくベールで覆っていないなどといわれ、村に入れません。実際女性が支援に現地に入るのは大変危険を伴います。

移住労働者も多くいます。言葉と文化の違いが大きな壁になっています。

到達するのが難しい山岳地帯であることと、一日ごとに寒さがまし、11月からは大変寒くなり、現地に入るのはほぼ不可能になるといわれています。11月から2月寒さが大変厳しく雪も多いので、多くの生存者が危機に瀕しています。子供と女性が最初に犠牲になることでしょう。

一日一日が勝負です。

\*\*\*\*\*

Tomoko  
Assistant to Programme Officer  
tomoko@apwld.org

Asia Pacific Forum on Women.  
Law and Development (APWLD)

Girl Guides Association  
189/3 Changklan Road Amphoe Muang  
Chiangmai 50101 Thailand  
Tel: (66) 53 284527, 284856  
Fax: (66) 53 280847  
apwld@apwld.org  
www.apwld.org